

H27-B-1 深度52.72~52.81m 最新活動面の走向・傾斜 (No.39) を変更、それに伴い条線方向 (No.40) を変更

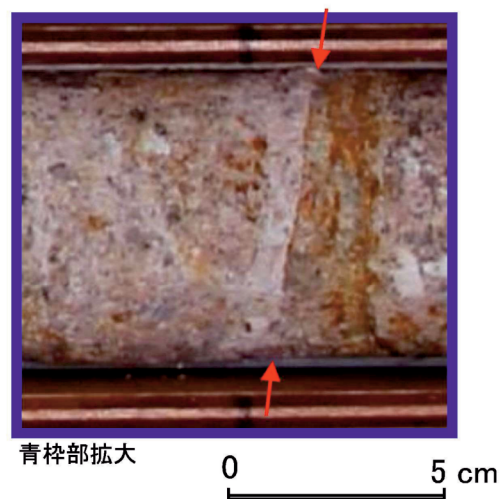
- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



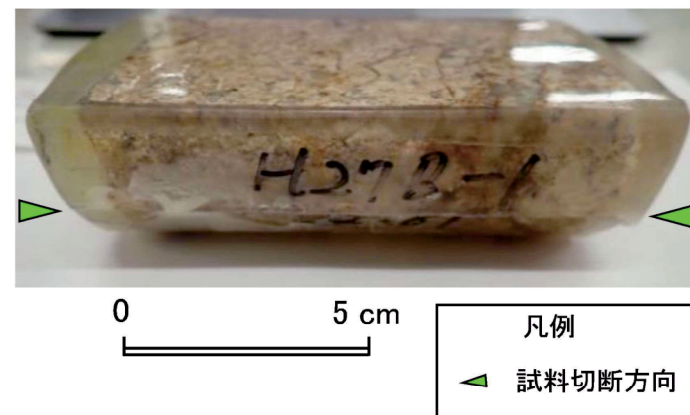
凡例
← → 破碎部範囲※
※: 写真上は白色で記載
最新活動面

研磨片作製位置



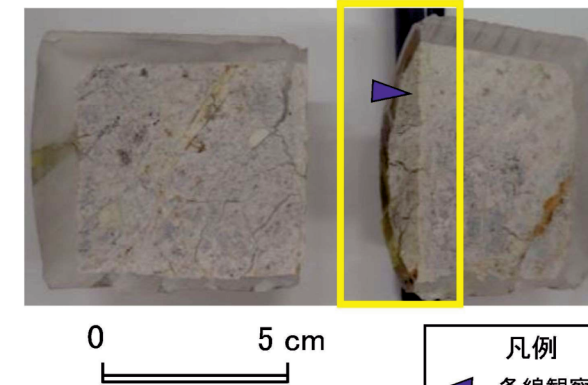
凡例
最新活動面

研磨片写真(横から)



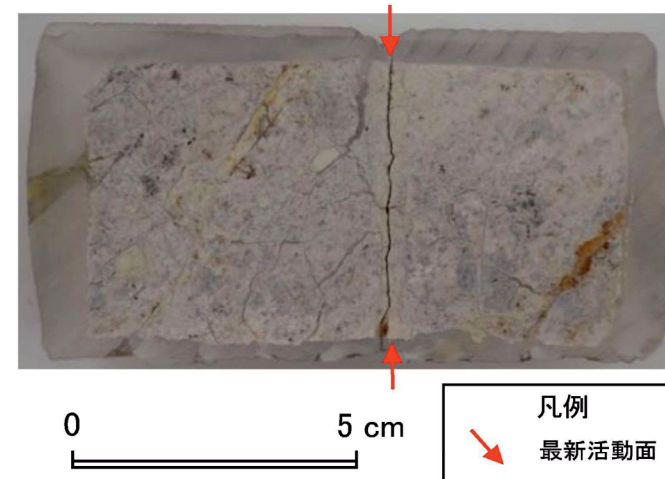
凡例
試料切断方向

条線観察位置



凡例
条線観察位置

試料切断面



凡例
最新活動面

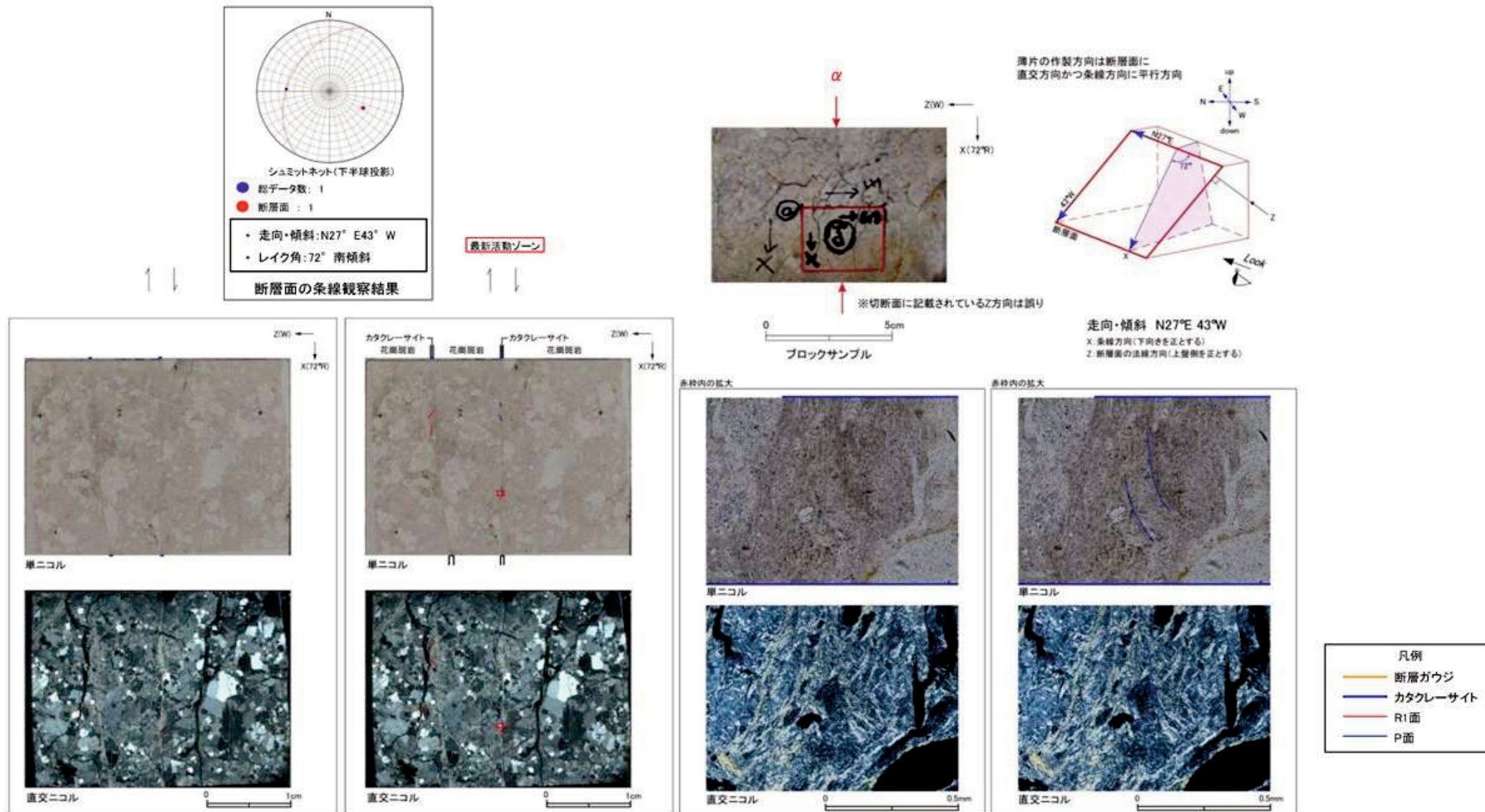
条線観察位置拡大



H27-B-1 深度52.72~52.81m 最新活動面の走向・傾斜 (No.39) および条線方向 (No.40) を変更、それに伴い変位センス (No.41) を変更

- 薄片試料の観察自体は適切に実施されていたが、走向・傾斜の変更 (N15E82E→N27E43W)に伴い、上盤と下盤が入替ること及び条線が高角度になる (10R→72R)ことより、変位センスは「左ずれセンス」から「逆断層センス」となる。

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 > (カタクレーサイト)基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 > (カタクレーサイト)断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
 > (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
 > (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。
 > 岩片は少ない。



H27-B-1 深度53.17~53.22m 全景写真の記載 (No.42) を修正

従前

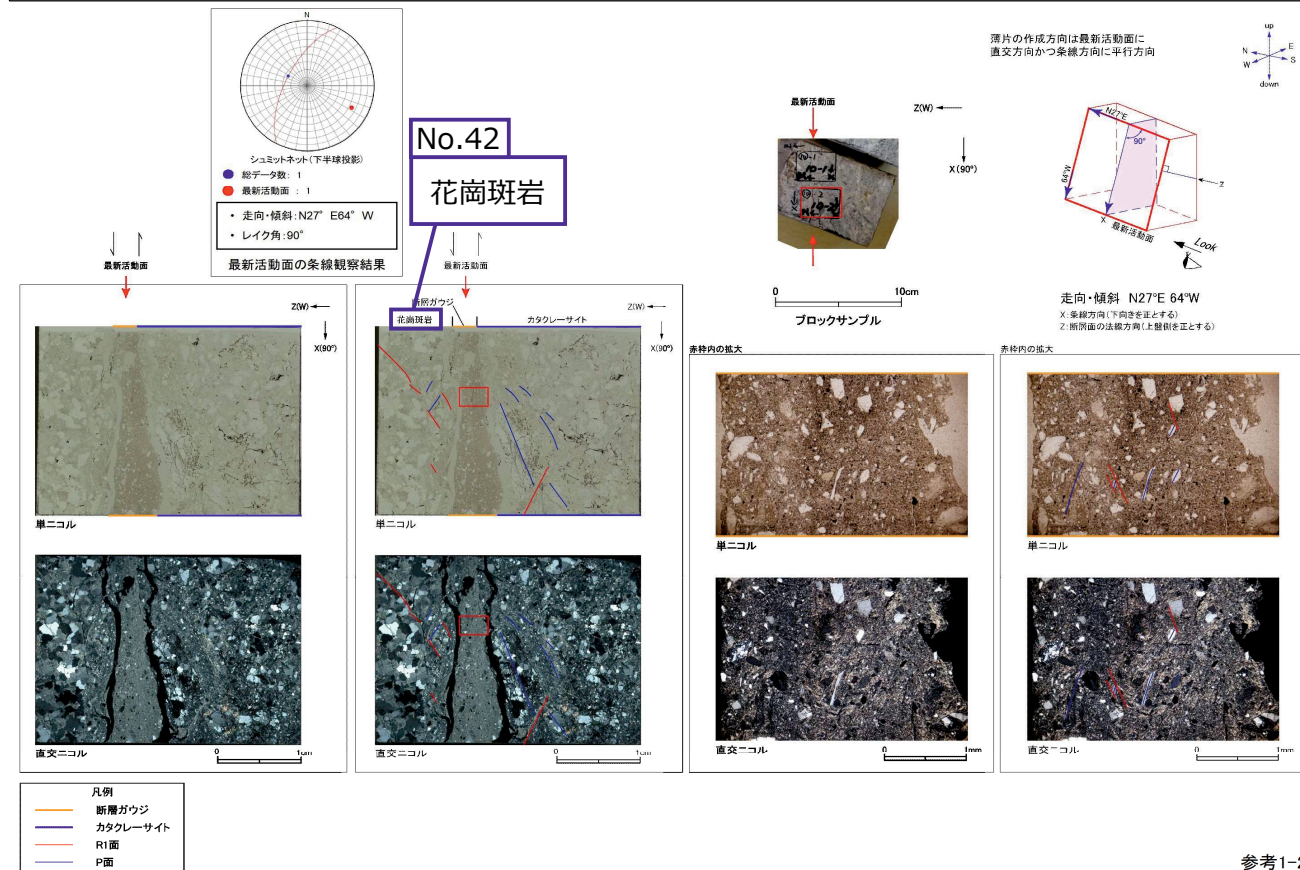
見直し後

第833回審査会合
机上配布資料1
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料1 薄片観察結果
参考1-236頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

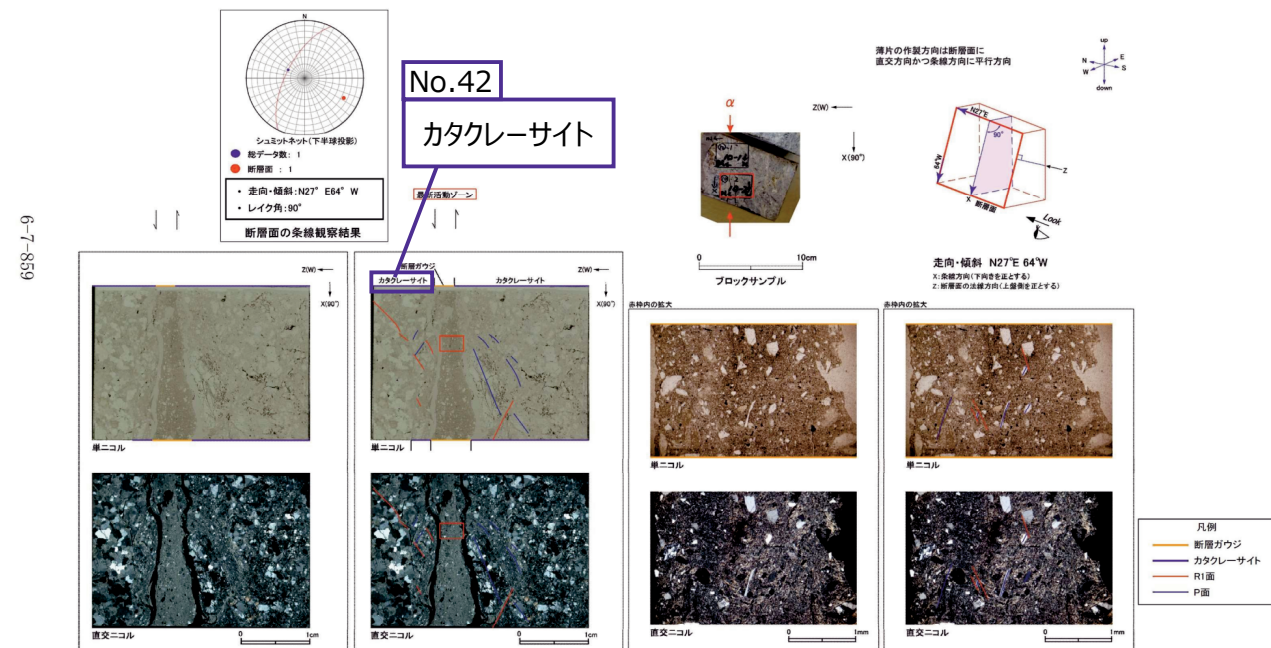
非モデル化破碎部 薄片試料観察(H27-B-1 深度53.17m)

H27-B-1のボーリングコア(深度53.17m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。



・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
➢ (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
➢ (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
➢ (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
➢ 岩片は少ない。

※断層面αは最新活動面



第7.4.4.270図(3) 破碎部性状 H27-B-1 深度53.17~53.22m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・走向・傾斜をN20E75Wに見直し（No.43）

【理由】BHTV展開画像からの走向・傾斜を読み誤っていた。

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 走向・傾斜の記載を「N20E75W」に変更（No.43）

b 見直し後の走向・傾斜に基づく図に変更（No.43）

H27-B-1 深度59.82~59.85m 走向・傾斜 (No.43) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

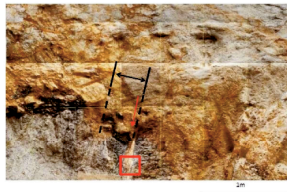
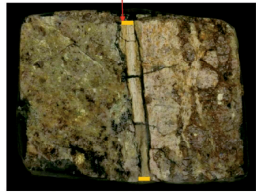



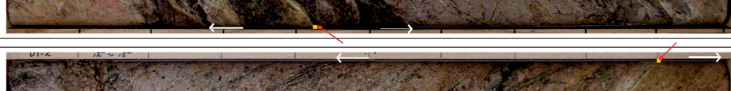

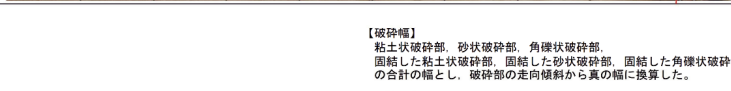
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-34頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

2. D-1 破碎帯
性状一覧表(6/12)






破砕帯名	破砕帯番号	破砕帯範囲 上層深度 [下層深度] (m)	走向	傾斜	破砕帯幅 (cm)	破砕帯の 幅 (cm)	破砕帯の 中心位置 実測位置	破砕帯の 中心位置 算出位置	平滑さ	方位	方位センサ		写真
											方位	方位	
ふげん道路 ビット	-	-	N8E	5	5	有 *1	平滑 *1	80L	正	-	-	-	
													
H27-B-1 (破砕帯47)	59.82	59.85	N26E	80W	2.5	0.7	有	平滑	80R	正	-	59	
D-1 H27-B-2 (破砕帯48)	61.20	61.60	N8E	80W	28.0	1.5	有	平滑	90	正	-	61	
H24-B14-2 (破砕帯45)	109.16	109.46	N1W	70W	7.8	2.2	有	平滑	-	正	右	109	
H24-D1-3 (破砕帯45)	34.23	34.52	N12W	80W	16.0	0.8	有	平滑	75L	正	-	34	
H24-D1-2 (破砕帯60)	12.38	12.97	N14W	70W	41.7	0.9	有	平滑	80R	正	-	12	
H24-D1-4 (破砕帯45)	10.91	10.93	N13W	70W	1.8	1.8	有	平滑	80L	正	-	10	

No.43
N26E80W

凡例
 ← → : 最新活動面
 ← → : 破砕幅
 — : 断層ガウジ
 ○ : 粘土の塊物が認められる箇所
 *1: 薄層
 *2: 状態

【破砕幅】
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
 固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
 の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。
 【平滑さ】
 平滑：最新活動面が直線的なもの
 非平滑：最新活動面が湾曲するもの

参考2-34

破砕帯名	破砕帯番号	破砕帯範囲 上層深度 [下層深度] (m)	走向	傾斜	破砕帯幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫			方位センサ	破砕帯名	写真					
						方位	方位	方位								
H27-B-1 (破砕帯47)	59.82	59.85	N26E	80W	2.5	有	有	有	0.7	有	80R	正	-	D-1	59	
H27-B-1 (破砕帯47)	59.72	52.81	N27E	75W	0.2	無	無	無	0.2	無	90	正	-	-	53	
H27-B-1 (破砕帯47)	53.17	53.22	N27E	75W	0.2	無	無	無	0.2	無	90	正	-	-	53	
H27-B-1 (破砕帯47)	69.70	69.73	N25E	82E	2.4	有	無	無	-	-	20L	-	右	-	69	
H27-B-1 (破砕帯47)	74.36	74.50	N15E	80W	10.7	有	無	無	-	-	54R	正	左	-	74	

No.43
N20E75W

凡例
 ← → : 最新活動面
 ← → : 破砕幅
 — : 断層ガウジ
 ○ : 粘土の塊物が認められる箇所
 *1: 薄層
 *2: 状態

※1 断層帯区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 -(上記以外) : データを取得していない箇所